

学校事務実践講座

「学校財務領域へのかかわり～就学保障の視点から～」

12月に、学校事務実践講座をラッセホールで開催しました。この講座は、兵庫教育文化研究所 学校行財政部会が、学校事務職員の“より積極的な学校運営への参画”をめざす中で、学校事務職員の「研修」の一つとして企画・実施しています。

今次講座では、22年2月に発行したリポート『子どもの就学保障を考える』をもとに、各地域組合の実態等の意見交流を通して、教職員や関係機関との協力・協働により「等しく学べる教育環境」を整備するため、学校事務職員として何ができるのかを考える機会とすることを目的としました。

新型コロナウイルス感染症の流行により、家庭の経済状況や自治体の財政状況にも影響がおよび、憲法等が保障する「すべての子どもが等しく教育を受ける権利」が保障されていない状況にある今だからこそ、学校財務領域の視点でどのようなアプローチができるかを考える必要性について問題提起がありました。「保護者負担軽減」、「家庭の経済力による格差へのアプローチ」、「自治体の財政力による格差へのアプローチ」として、教職員ができる3つのとりくみについて具体的事例をもとに提起されました(上図参照)。子どもの就学保障の現状と課題を共有し、どのように教職員が関わっていくことができるのかを参加者自身が考えさせられる問題提起となりました。



後半のグループワークでは、問題提起を受け、教職員やさまざまな関係機関と協力・協働する中で、学校事務職員がはたすべき役割を考えるとともに、各地域組合の実態等を意見交流しました。



また、各地区・地域組合の徴収金や、就学援助事務の状況について情報交換しました。同じ県内でも、就学援助の給付額や給付費目が大きくちがうことや、学校予算の配当状況もさまざま、用紙代を保護者から徴収せず公費で支出している学校もあること等が話題になり、就学保障の視点から各校の現状を見つめ直すよいきっかけとなりました。「私費負担をどう減らしていくかを悩んでいたの、方向性は間ちがってないんだと思いました。相対的貧困の状況などをきちんと伝え、行政も含めた全体で同じ方向をむき、誰もが教育を受けられるようにしていきたいと感じた」、「各地区の現状を聞くことができ、さまざまな問題に対する意見交流ができてよかった」、「最初にすばらしいアイスブレイクの時間があり、みなさんと本当にワイワイとお話でき、楽しく情報交換することができた」といった感想がありました。

参加者のみなさんが本講座で得た学びをもとにして、すべての教職員がそれぞれの職種の専門性を生かしながら、協力・協働のもと子どもの就学保障を考え、等しく学べる教育環境整備のとりくみをさらにすすめていくきっかけとなることを期待しています。

『子どもの就学保障を考える』のリポートは各地域組合・分会・事務職員部に配付済みですが、兵教組 HP(組合員専用ページ)にも掲載していますので、ご覧ください。【ID・パスワードは各地域組合へお問い合わせください】

